

江戸時代の町なみ

このエリアの中央には、東海道(現・中央通り)が南北に通っている。その東海道の横道を入った周辺に、職人町が集まっているのが、このエリアの特色だ。京橋川にかかる京橋の南には、銀貨をつくる銀座があり、

川沿いには京橋をはさんで、西側に大根河岸(青物市場)、東側には竹河岸があった。また、三十間堀川に沿って東側に続く木挽町は、当時から江戸歌舞伎の町として知られ、現在も歌舞伎座、新橋演舞場などがある。

布を染めるときは任せて!!

- ① 北紺屋町 (現・八重洲二丁目、京橋三丁目)
- ② 南紺屋町 (現・銀座一丁目)
- ③ 西紺屋町 (現・銀座一〜四丁目)

紺屋の「紺」は木綿を染めた藍染めの色のこと。町人の仕事着を染める職人が住んでいたため、町名がついた。神田に紺屋町(現・千代田区)があったので、区別するために「北・南・西」をつけた。

タカ持りにはなくてはならない

- ④ 弓町 (現・銀座二丁目)

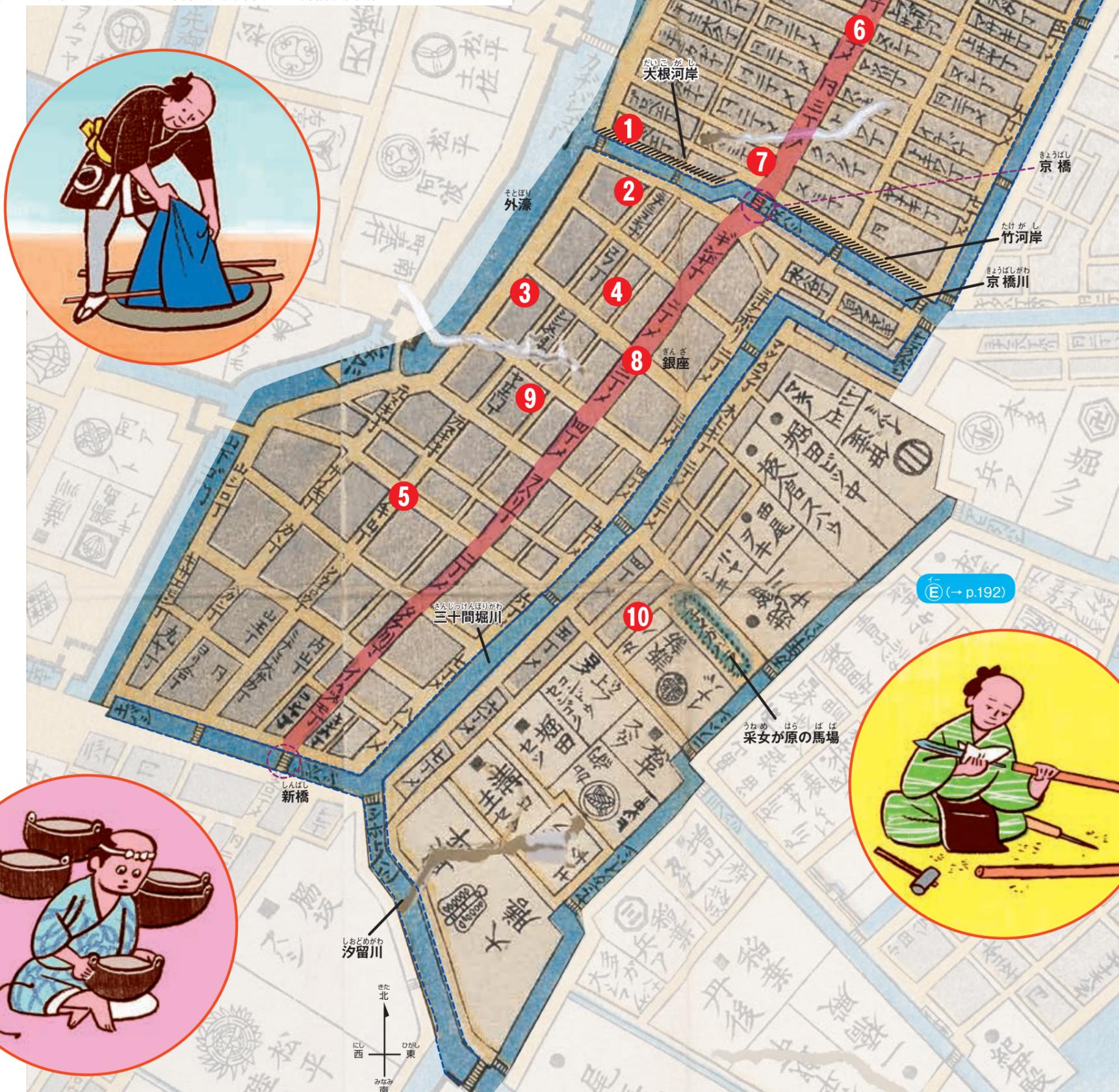
弓町は弓職人が多く住む町で、町名は徳川家康が入城する際に連れてきた、弓や矢をつくったり修理したりする、腕のよい弓職人が住んだことに由来する。



つくるのは鍋だけじゃないよ

- ⑤ 南鍋町 (現・銀座五〜六丁目)

この町には、金属を熱で溶かして鍋や鐘をつくる、鋳物職人が多く住んでいた。町名の由来は、優れた鋳物職人に江戸幕府が与えた土地だったからとも、この辺りにあった山下御門を鍋島門とよんだからともいわれる。江戸時代初期に、神田の鍋町(現・千代田区)の一部が移転してきて、南鍋町となった。



南への荷物はここから出発!

- ⑥ 南伝馬町 (現・京橋一〜三丁目)

南伝馬町は、三伝馬町の1つ(→p.168)。町名の由来は大伝馬町と同じである(→p.166)。大伝馬町、小伝馬町と区別するために「南」をつけた。

江戸城の畳は中央区製

- ⑦ 畳町 (現・京橋二〜三丁目)

江戸幕府のための畳をつくる、優しい畳職人が住んでいたことから、この町名がつけられた。畳職人が多い町だった。



新しくできたから新両替町

- ⑧ 新両替町(銀座) (現・銀座一〜四丁目)

江戸時代初期から1800(寛政12)年まで、ここには銀座があり、銀座に銀貨の材料となる地金を買い集めて納めたのが両替商だった。町名は、その両替商たちが住んでいたことにちなみ、「新」をつけて日本橋の両替町(→p.148)と区別した。新両替町を銀座とよぶこともあった。

勇ましい名前だね

- ⑨ 鎗屋町 (現・銀座三〜四丁目)

徳川家康が入城の際に連れてきた、腕のよい鎗職人が土地を与えられてついた町名。職人たちは江戸幕府からも注文を受けた。鎗屋町とも書く。



女性の職業が名前の由来

- ⑩ 采女が原(采女町) (現・銀座五丁目)

今治藩(現・愛媛県)松平采女正の屋敷があったことに由来する町名。「采女」とは、江戸時代以前に、京都の朝廷の役人の姉妹や娘が、天皇の食事の世話係になったときの役職の名前で、采女正はその長官のこと。この辺り一帯は「采女が原」とよばれ、近くの馬場は「采女が原の馬場」といわれた。